

法政大学学術機関リポジトリ

HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-11-26

佐藤一子教授退職記念：佐藤一子教授のご退職にあたって

金山, 喜昭

(出版者 / Publisher)

法政大学キャリアデザイン学部

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

法政大学キャリアデザイン学部紀要 / 法政大学キャリアデザイン学部紀要

(巻 / Volume)

12

(開始ページ / Start Page)

5

(終了ページ / End Page)

7

(発行年 / Year)

2015-03

佐藤一子教授退職記念

佐藤一子教授のご退職にあたって

法政大学キャリアデザイン学部長 金山 喜昭

本学部で教鞭をとられてきた佐藤一子先生が、今年度をもってご退職されることになりました。これまでの先生のご活躍に対して、ひとことお礼の言葉を述べさせていただきます。

先生は、東京大学教育学部卒業、同大学院（修士）教育学研究科教育行政学科を修了、同大学院（博士）教育学研究科社会教育専修を単位取得満期退学されました。その後、埼玉大学助教授、教授を経て、東京大学大学院教育学研究科（生涯学習コース）教授を勤められ、定年退職されました。2009年には、イタリア学習社会論の研究で東京大学に博士論文を提出して博士（教育学）の学位を授与されています。

東京大学に在職する間、数多くの研究成果を発表されていますが、なかでも『生涯学習と社会参加』（東京大学出版会 1998年）では、ユネスコ学習権宣言の思想を日本社会に生かし、すべての人々にとって学習が必要不可欠なものとして、自己の発展と社会の発展の二重の視野を養うものであることを提言されました。そこで示された生涯学習観は特筆すべきものといえます。

本学部には2007年4月に着任されました。学部開設の4年目に教授としてお迎えをしました。学部では、発達・教育キャリア入門C（生涯学習入門Ⅰ）、発達・教育キャリア入門D（生涯学習入門Ⅱ）、地域学習支援ⅠⅡ、生涯学習論Ⅲ（成人教育論Ⅰ）、生涯学習論Ⅳ（成人教育論Ⅱ）、演習および卒論、基礎ゼミなどの授業を担当され、大学院（キャリアデザイン学専攻）でも2010年ま

6 法政大学キャリアデザイン学部紀要第12号

で「キャリアデザイン学演習」「文化コミュニティ政策論」をご担当いただきました。ご専門の学識を踏まえながら、幅広い経験や知見から学生・院生の指導にあたっていただき、多くの学生・院生が先生の学問に触れて成長しています。また、ご研究の分野でも目覚ましい活躍をなさっています。本学時代の研究成果を総括して、『地域学習の創造』（東京大学出版会 2015）も公刊されることになっています。

ご在職の8年間は決して長い期間とはいえませんが、その間に本学部は先生から多大のご尽力をいただきました。ご専門の生涯学習研究は、本学部の理念を支える基盤になるものですが、先生からは様々な建設的な意見や示唆をいただくばかりでなく、先生が牽引役となり次のようなプログラムを実現することができました。

なかでも、先生が最も力をいれて取り組まれたのは「地域学習支援士」です。本学部が独自に認定する資格であり、その養成プログラムです。社会教育主事資格などのように制度化された専門職養成とは別に、公共、民間において地域活動を支援するコーディネーターの必要性が高まっているという背景のもとに考案されました。この養成プログラムは、地域社会の現代的ニーズをとらえて、学習文化活動により地域を活性化させる人材、そのための事業を支援する人材の養成をめざしています。これは、かねてから先生が取り組んでいる、現代日本社会の地域学習支援論を構築する一つの試みとなっています。

また、キャリア体験学習（国際）という体験型学習科目に、ベトナム（ホーチミン市）をフィールドに設定できたことも、先生の働きかけによるものでした。このプログラムは、学生たちにとって現地の日本人やベトナム人のキャリアを学ぶとともに、現地の学術・教育・文化に触れる異文化交流を体験する貴重な機会になっています。

さらに、全学的には留学生対応にもご尽力をいただきました。本学部では2012年度の入学生からSA（スタディ・アブロード）というプログラムを開始しました。オークランド大学（ニュージーランド）やアデレード大学（オーストラリア）で集中的に英語を学び、英語によるコミュニケーション能力の向上をめざすものですが、その立ち上げにも国際交流委員の立場から本学部のプログラムを位置づけることにご尽力をいただきました。また、留学生アドバイ

ザーとしても、問題を抱える留学生にきめ細かく対応していただき、本学の国際交流業務にも貢献していただきました。

こうして振り返ると、本学に対する先生のご功績は多大であることを改めて知ることができます。8年という期間はけっして長いものではありませんが、本学で学ぶ学生たちにとって社会教育学（生涯学習）の専門的な立場から斬新な教育活動を具体化していただいたことに感謝いたします。先生の今後の益々のご活躍と健勝を心からお祈りするとともに、本学部へのご教示やご鞭撻を引き続きお願いしたいと思います。